



## 第3回広島県学生地域連携活動発表会

12月7日（土）、県立広島大学広島キャンパスにて「第3回広島県学生地域連携活動発表会」を盛大に開催しました。本発表会には、広島県内外の大学・短期大学・高等専門学校及び一般参加者など、総勢221名（会場参加者166名、オンライン参加者55名）が参加し、地域と連携した取り組みの成果を共有しました。

本発表会の趣旨は、地域が抱える課題に対して地域住民や行政、企業といった多様なステークホルダーと学生が連携し、新しい視点や柔軟な発想で課題解決に取り組むことで、地域社会の持続可能な発展を目指すものです。本発表会はその取り組みを支える重要な場であり、地域の未来を担う人材育成にもつながっています。

冒頭では、主催者を代表して県立広島大学の森永力学長が挨拶を述べ、続いて広島県議会の中本隆志議長らの祝辞を山木茂県議会議員が代読されました。また、本学と教育研究活動および地域貢献活動の連携協力を締結した宮城大学から、佐々木啓一学長が来賓として参加されました。本発表会の特別参加校として、大学連携の意義をさらに高めるものとなりました。

発表会では、叡啓大学、近畿大学工学部（広島キャンパス）、呉工業高等専門学校、県立広島大学、山陽女子短期大学、比治山大学・比治山大学短期大学部、広島市立大学、広島経済大学、広島工業大学、宮城大学、広島国際大学、広島修道大学、広島女学院大学、広島大学、広島都市学園大学、広島文化学園大学・広島文化学園短期大学、広島文教大学、福山市立大学、福山大学、安田女子大学・安田女子短



期大学の20校が地域課題への取り組みを発表しました。

各発表では、地域の現場における具体的な取り組み事例や、その成果と課題が共有され、発表後の質疑応答では会場およびオンライン参加者から多くの質問が寄せられ、活発な意見交換が繰り返されました。具体的には、発表者が取り組んだ課題解決の方法や実際の活動中に直面した困難、その克服方法についての質問が多く寄せられました。一部の質疑では、参加者が自身の経験を交えてコメントする場面もあり、双方向の学びが深まる充実した時間となりました。質疑応答を通じて、参加者全体で地域社会の課題について共通理解を深めることができました。

講評では、ひろしまジン大学の平尾順平代表理事が「それぞれ学生の発表が地域の持続可能な発展に向けた大きな貢献を果たしている」として各



発表に対する丁寧なコメントをいただきました。また、広島県知事も会場に訪れ、「学生たちの発表は、多くの先輩たちの地域の未来を担う姿と重なり、地域全体に新たな希望を感じさせるもの」と励ましの言葉を贈られました。

発表終了後には、ポスターセッションが開催され、発表学生が直接参加者と意見を交わす場が設けられました。参加者からは、取り組みへの具体的なフィードバックや新たなアイデアが寄せられるなど、発表内容をさらに発展させる契機となりました。また、協賛企業によるブース展示も行われ、地域課題解決に向けた企業との連携の可能性を広げることができました。

協賛、協力、後援をいただいた団体・企業の皆様に心より感謝申し上げます。

協賛：株式会社マエダハウジング、一般財団法人広島県環境保健協会、株式会社総合センター クレイトンベイホテル、株式会社サンネット、株式会社 NTT データ中国、株式会社フレスタホールディングス、株式会社ジェイ・エム・エス

協力：オタフクホールディングス株式会社

後援：広島県、広島県議会、中国新聞社、広島テレビ

## 宮城大学・県立広島大学

### 包括的連携協力に関する協定書調印式

12月6日（金）、県立広島大学広島キャンパス教育研究棟において、宮城大学と県立広島大学の包括的連携協力に関する協定を締結する調印式を行いました。

本協定は、両大学の特色と強みを活かし、単独では実現が難しい教育研究活動や地域貢献活動を共同で推進することを目的としています。

式典では、冒頭で県立広島大学の森永力学長と宮城大学の佐々木啓一学長がそれぞれ挨拶を行い、協定締結の意義と期待について述べました。続いて協定書の朗読が行われ、調印者である両学長が協定書に署名。締結を記念して、両学長は力強く握手を交わし、会場は盛大な拍手に包まれました。

この協定の内容は、教育の質向上、教職員の研究や資質向上、地域社会を担う人材育成、地域貢献活動など、多岐にわたります。両大学はそれぞれが拠点とする地域において、公立大学としての使命を果たしながら、教育・研究活動や地域社会の課題解決において協力を深めていく方針です。

式典後には記者会見が行われ、協定に関する質問や今後の具体的な取り組みについて説明がありました。さらに意見交換会では、両大学の教職員が今後の連携の可能性について活発に意見を交わし、協定の実効性を高めるための重要な場となりました。今回の協定締結により、両大学は地域社会の発展に寄与するため、さらに密接な連携を進めてまいります。



## 令和6年度ミュージアムツアー

広島キャンパスでは例年、キャンパスメンバーズ制度の一環として、美術館・博物館を学生・教職員が訪問し、県内の博物館・美術館等の展示を実際に見学するミュージアムツアーを実施しています。今年度は、8月10日に福山市にある「ふくやま草戸千軒ミュージアム(広島県立歴史博物館)」に行き、夏の企画展「名宝が織りなす歴史物語ー広島県の国宝・重要文化財ー」を全員で鑑賞しました。当博物館の主任学芸員の方に展示物の解説を行っていただき、国宝1件、重要文化財11件、広島県重要文化財14件(このうち9件は、最近15年間に指定された新指定品)の見どころを教えてくださいました。国宝・重要文化財の中には、普段公開されているものもありますが、中にはめったに見ることのできない展示物もあり、弥生時代の土器や平安・鎌倉時代の仏像など様々な名宝を目にしました。また、常設展示室も見て回り、引率の鈴木康之教授(地域創生学部地域創生学科)にも、考古学の観点から当時の草戸千軒の民衆生活や出土品について解説いただきました。



企画展を鑑賞したのち、福山市内の美術館や資料館などを各自で自由に巡りました。参加した学生には博物館や学芸員に関する講義を受講している者も多く、ツアーの感想として「展示の解説をしてもらいながら見て回る貴重な体験ができて満足です。」「いつもなら素通りしそうな場所でも背景やちょっとした情報を知っていれば興味深さが変わるということを実感し、かなり長時間展示を見て回りました。」との声が寄せられました。

## 広島県瀬戸内高校の「ビジネスプラン」を考えるワークショップ

8月5日(月)と8月8日(木)の2日間、県立広島大学広島キャンパスにおいて、広島県瀬戸内高等学校の高校生を対象とした「ビジネスプランを考えるワークショップ」を実施しました。本ワークショップは、高校の課題探究の授業において、高校生が自ら社会課題を見出し、その解決に向けたビジネスプランを作成、ブラッシュアップする場として開催しました。本学の学生や教員がサポートする中、初回では高校生たちが現在のビジネスプランを発表し、課題解決のために不足している点を明らかにしました。その後、「リーンキャンパス」というツールを活用してアイデアを整理し、プランの具体性や実現可能性を高める作業を行いました。



第2回目のワークショップでは、各グループがブラッシュアップしたビジネスプランを発表しました。朝食を摂らない人が多いという課題に対し、高校生が手軽に食べられるスムージーの販売を提案するプランや、高齢者が通院しづらいという課題を解決するために、LINEを活用した医療体制の構築を提案するプランなど、多岐にわたる社会課題への解決策が示されました。発表後には、本学の学生や教員から各プランに対して具体的なアドバイスや質疑が行われ、高校生たちはプランの改善点をさらに明確にする機会を得ました。

本学は、今後も地域と連携した教育活動を通じて、次世代を担う人材育成に積極的に取り組んでまいります。

## 令和6年度アグリビジネスセミナー

9月8日（日）と9月13日（金）の2日間にわたり、「令和6年度アグリビジネスセミナー 持続可能な新しい農業のかたち ～次世代農業・アグリビジネスの未来～」を開催しました。第1回は本学庄原キャンパス、第2回は広島県立油木高等学校を会場にして実施しました。

第1回目のセミナーでは、環境資源を有効活用した持続可能な農業の取り組みやアグリビジネスの最新事例に焦点を当て、5つの講演が行われました。本学の甲村浩之教授による「魚と野菜を同時に育てるアクアポニックスの仕組み」の講演では、陸上養殖と水耕栽培を組み合わせた新しい農業システムであるアクアポニックスや、本学での植物工場の取り組みが紹介されました。また、広島県立油木高校の生徒たちは、「油木高校の新たな挑戦～アクアポニックスの可能性～」をテーマに、地域資源を活用したビジネス展開への挑戦や、アメリカ視察を通じた学びを発表しました。さらに、長岡市役所商工部の笹原康司氏が、産学官連携を活用したバイオ産業振興の取り組みについて講演したほか、株式会社プラントフォームの山本祐二氏は、アクアポニックス技術を活用した新たな食料生産モデルの実現に向けた挑戦を語りました。最後に、アグリビジネス投資育成株式会社の植村宏一郎氏が、スタートアップファイナンスの基礎や、農業関連ビジネスにおける投資ファンドの取り組みを解説しました。講演後には本学のアクアポニックス施設や植物工場の見学会が行われ、参加者は講演内容を実際に目で確認する機会を得ました。



第2回目のセミナーは、広島県立油木高等学校を会場に開催し、地域資源の活用に重点を置いた内容となりました。本学の吉野智之准教授が「地域食材を利用した加工食品の開発」をテーマに、地域特産物を活用した商品開発や販売促進の事例を紹介。地域の農業資源を活かしたアグリビジネスの可能性について、具体的な視点を提供しました。また、油木高校の生徒たちは、アクアポニックスの実践事例や課題解決の取り組みについて発表し、実際に運営する施設の見学会も行われました。

参加者からは、「産・官・学それぞれの視点から取り組みを学べた」「高い専門性を持った講演に触れ、次回もぜひ参加したい」といった声が寄せられ、セミナーの意義が強く感じられる場となりました。本学は、今後もこのような取り組みを通じて、地域と連携し持続可能な社会の実現を目指してまいります。

## 編集発行

県立広島大学地域基盤研究機構地域連携センター  
〒734-8558 広島県広島市南区宇品東1丁目1番71号  
電話 (082) 251-9534/E-mail: renkei@pu-hiroshima.ac.jp  
<https://www.pu-hiroshima.ac.jp/soshiki/renkei/>

## 各キャンパス問い合わせ先

地域基盤研究機構庄原地域連携センター  
〒727-0023 広島県庄原市七塚町 5562 番地  
電話 (0824) 74-1000/E-mail: gakuju@pu-hiroshima.ac.jp

地域基盤研究機構三原地域連携センター  
〒723-0053 広島県三原市学園町 1 番 1 号  
電話 (0848) 60-1120/E-mail: mrenkei@pu-hiroshima.ac.jp